

MUFGにおけるサステナビリティの取り組み

MUFGのサステナビリティ経営

— 持続可能な環境・社会がMUFGの持続的成長の大前提であるとの考えのもと、環境・社会課題の解決とMUFGの経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組む —

MUFG Wayと行動規範の位置付け

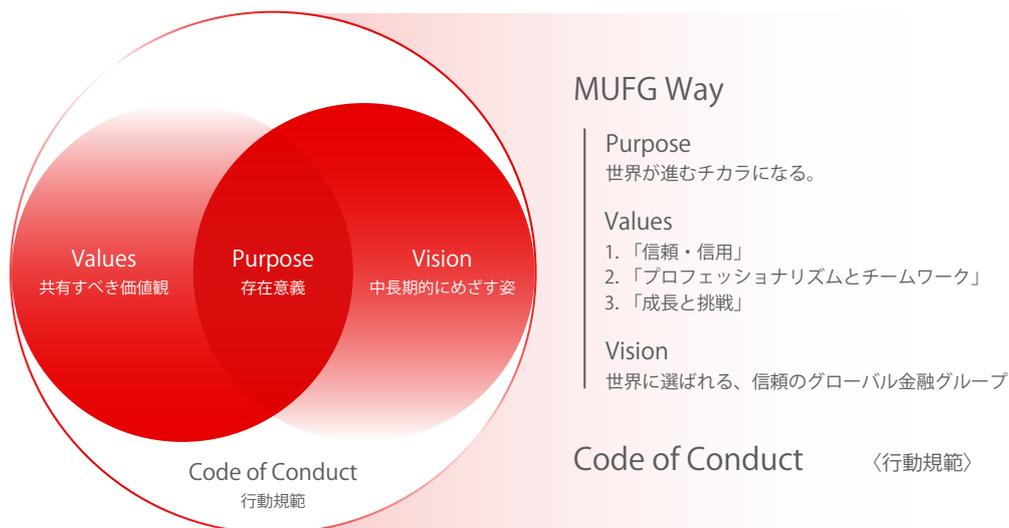
MUFG Way

MUFG Wayは、MUFGグループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。

経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全役職員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。

パーパス(存在意義)である「世界が進むチカラに

なる。」には、「全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラになりたい」という決意が込められています。これが起点となり、中期経営計画をはじめとする全ての戦略は確かなベクトルと強い推進力を得ることで、持続可能な社会の実現に一層貢献していくことができると考えています。



行動規範

行動規範は、MUFG Wayのもとに、グループの役職員が日々いかに考え、判断し、行動すべきかを示したもので、以下3つの章で構成されています。

▶ 詳細: 「行動規範」(<https://www.mufg.jp/profile/governance/ethics/>)

- 第1章 お客さまに対する姿勢
- 第2章 社会に対する責任
- 第3章 職場における心構え

中期経営計画における位置付け

MUFGは、パーパス「世界が進むチカラになる。」の実現に向けて、社会、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題に徹底的に向き合い、その解決に取り組めます。今年度からスタートした中期経営計画では、3年後のめざす姿として「金融とデジタルの力で未来を切り拓くNo.1ビジネスパートナー」を

掲げ、「デジタル」「挑戦・スピード」に並ぶ変革テーマの一つに「サステナビリティ経営」を位置付けました。

優先的に取り組む10の環境・社会課題を起点に事業戦略、リスク管理、社会貢献活動を推進し、環境・社会課題の解決に貢献していきます。

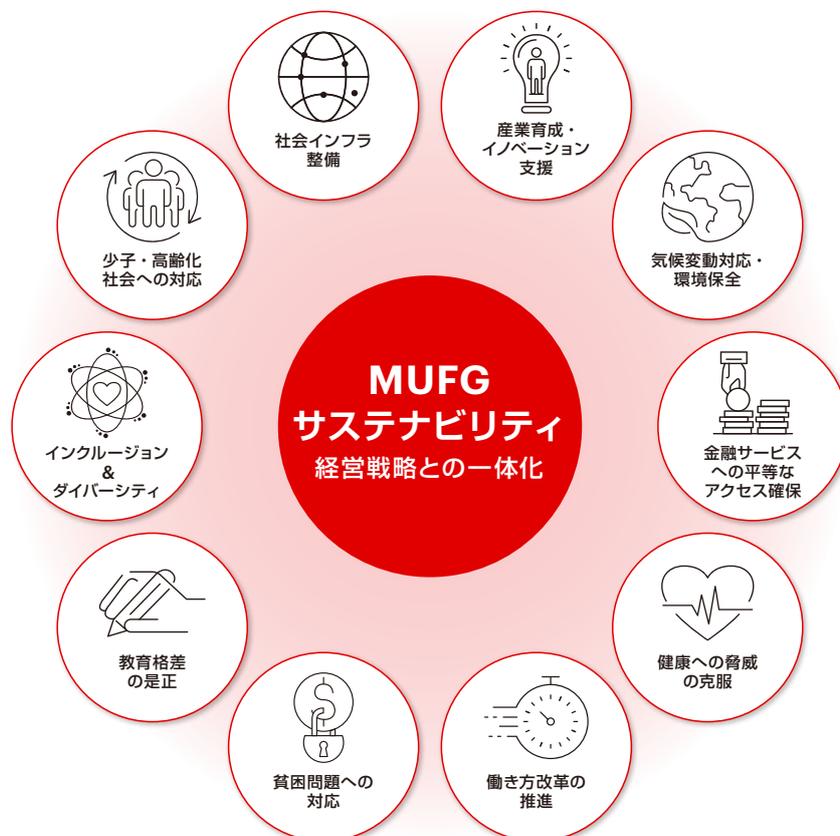
▶ 詳細は「サステナビリティの推進 (P.11)」「優先課題への取り組み (P.17)」をご覧ください。

サステナビリティ経営の全体像



MUFGのサステナビリティ経営

持続可能な環境・社会がMUFGの持続的成長の大前提であるとの考えのもと、環境・社会課題解決とMUFGの経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組む



CEOメッセージ



「世界が進むチカラになる。」

MUFGは、全てのステークホルダーが次へ、前へと進むために全力を尽くします。

取締役
代表執行役社長 グループCEO

亀澤 宏規

グループCEOの亀澤です。

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々やそのご家族に心からお見舞いを申し上げます。また、医療現場で治療や感染予防に従事されている関係者の皆さまに心から敬意を表し、感謝申し上げます。

MUFGは、この4月より、「世界が進むチカラになる。」を自社のパーパス(存在意義)に定めるとともに、環境・社会課題解決への貢献を従来以上に強く意識して策定した新たな中期経営計画をスタートしました。

「社会が持続可能であって、はじめてMUFGが成長できる」との認識のもと、お客さま・パートナー、地域・社会、未来の世代、MUFG社員といった全てのステークホルダーが次へ、前へと進むために全力を尽くします。

気候変動や少子高齢化、社会のデジタルシフトへの対応等の課題は、世界中の人々の生活、そして企業の活動に大きな転換を迫っています。グリーン化、デジタル化をはじめとする世界的な潮流が加速するなか、多く

のお客さまから、MUFGの持つファイナンスや安心安全な次世代金融サービスに大きな期待を寄せていただいています。世の中の変化を正しく読み解き、環境・社会課題解決をMUFGの成長機会とすることで、サステナビリティへの取り組みをリードしていきたいと考えています。

最重要課題の一つである気候変動問題の解決に向けて「MUFGカーボンニュートラル宣言」を公表しました。これまで進めてきたさまざまな取り組みを本宣言の中で再整理するとともに、パリ協定の合意事項達成に貢献していくという当社の強いコミットメントを内外に示しました。「2050年までの投融資ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロ」および「2030年までの当社自らの温室効果ガス排出量ネットゼロ」を達成すべく、脱炭素社会の実現に向けたトランジション・グリーンイノベーションへの取り組みを積極的に支援し、当社自身の成長にも繋げていきます。

サステナビリティ経営を通じて、自身の仕事が生かされているという実感を持つ社員を増やしていきます。これにより、社員は誇りを持って日々の仕事に取り組めると考えています。

社員一人ひとりがMUFGのパーパス「世界が進むチカラになる。」を心に刻み、「どうやってお客さまや社会のチカラになるのか」と自身に問いながら、職場で上司や周囲と思うところを話し合う。そうした対話を繰り返し促すことで、お客さまや社会への貢献が社員

の思考・行動の起点となっていくのだと思います。パーパスの浸透がMUFGの全ての戦略に確かなベクトルと強い推進力を与えることをめざしています。

世代、性別、国籍、文化、価値観などの多様性を持った社員が、自由闊達に意見を出し合えるカルチャーを醸成しながら、グループ・グローバル一体で持続可能な環境・社会の実現に貢献していきます。

今後とも皆さまのご理解と一層のご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

～『赤い球の冒険』に込めた想い～

MUFGのロゴから飛び出した「赤い球」がさまざまな仕掛けを起動させながら転がっていきます。すると、何もなかったところに橋が架かり、風車が回り、太陽光パネルが設置されることで、自然エネルギーが生まれます。さらに、植林で緑が増え、昆虫や動物など多様な生物が集まってきます。

これは、2021年6月にリリースした『赤い球の冒険～MUFG Soul Movie～』の演出の一部です。

映像の中では、困難に直面しても「STAY」ではなく、迷わず「CHANGE」を選択して進み続ける赤い球の様子を、MUFGに見立てて表現しています。サステナビリティに懸ける私たちの想いや価値観を、

▶『赤い球の冒険』はこちらをご覧ください。(https://youtu.be/i8NveZd5-WA)

社会に分かりやすく伝えていくことも大切な取り組みと考え、この映像を作成しました。

持続可能な環境・社会を実現するため、『赤い球の冒険』はこれからも続いていきます。



サステナビリティ アップデート

パーパス(存在意義)

「全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラになりたい」という決意を込めて設定

世界が進むチカラになる。

▶ 詳細：P.3

優先課題の見直し

MUFGとして優先的に取り組む10課題を特定

10 課題

▶ 詳細：P.18

脱炭素社会の実現に貢献

2050年までの投融资ポートフォリオのGHG排出量ネットゼロ、2030年までの当社自らのGHG排出量ネットゼロ

MUFGカーボン
ニュートラル宣言

▶ 詳細：P.9, P.50

イニシアティブへの参画

気候変動対応を充実、日本やアジアを主要基盤とする金融機関として情報や意見を積極的に発信

NZBA、PCAF

▶ 詳細：P.22, P.133

自社電力 再生可能エネルギー化

非化石証書の購入による取引市場の活性化、再生可能エネルギー普及の推進

100%

(国内の銀行拠店の自社契約電力分)

▶ 詳細：P.21

サステナブル ファイナンス 目標の引き上げ

環境・社会課題解決、
経済発展の支援強化

35兆円

▶ 詳細：P.37

サステナブルファイナンス 累計実行額

環境・社会課題の解決に向けて
積極的な支援を実施

7.9兆円

(2019年度からの累計)

▶ 詳細：P.37



**再生可能エネルギープロジェクト
ファイナンス累計組成額**

再生可能エネルギーを重点支援領域として積極的に推進

460億米ドル
(2010年度からの累計)

▶ 詳細：P.60

CO₂削減目標再生可能エネルギー事業へのプロジェクトファイナンスによるCO₂削減目標を設定**7,000**万トン

▶ 詳細：P.60, P.73

東京大学と産学連携

脱炭素化のパスウェイとその実現における金融の役割を研究

**東京大学
と協働**

▶ 詳細：P.22, P.111

MUFG環境・社会ポリシーフレームワークの見直し

環境・社会配慮を実現するため、事業活動やビジネス環境の変化に応じて定期的に見直しを実施

厳格化

(石炭火力発電、森林・パーム油セクター)

▶ 詳細：P.70

責任投資の推進

21世紀金融行動原則最優良取組事例において受賞

**環境大臣賞
受賞**

▶ 詳細：P.140

**国内女性
マネジメント比率目標**

多様な視点や価値観をより経営に近い領域で反映

18.0%

▶ 詳細：P.25, P.87

役員報酬評価指数

新中期経営計画達成とサステナビリティ経営の遂行に向けて役員報酬制度を改定

**ESG要素
反映**

▶ 詳細：P.55, P.116

社会貢献活動費

金融サービスによる貢献が難しい領域、社会にとって真に必要な領域においては、寄付・ボランティア等を実施

91.6億円

▶ 詳細：P.106



MUFGカーボンニュートラル宣言

～2050年までの投融资ポートフォリオの温室効果ガス排出量ネットゼロ、
および2030年までの自社の温室効果ガス排出量ネットゼロの達成をめざす～

ファイナンスを通じた脱炭素化実現へのコミットメント

- 2030年の中間目標を2022年度中に設定、開示
- 適切なエンゲージメント機能の発揮
- イノベーション技術やトランジションの取り組みを積極的に支援

- ☑ 脱炭素に向けたファイナンス積極支援
- ☑ 再エネ、水素・次世代エネルギー等支援
- ☑ サステナブルファイナンス目標の設定
- ☑ 国連主導のNet-Zero Banking Allianceへの参加

- ☑ 「MUFG環境・社会ポリシーフレームワーク」の継続的な見直し
- ☑ 石炭火力発電関連と信残高の将来目標の開示
- ☑ 気候変動リスクの与信プロセスへの反映

自社独自で進める脱炭素化

- MUFG自身の環境負荷低減
- 利益の一定割合を社会貢献活動に拠出する枠組みの活用

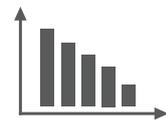
- ☑ 自社契約電力の100%再生可能エネルギー化
- ☑ 再エネファンド立ち上げ
- ☑ 次世代エネルギー需要創出
- ☑ カーボンオフセット（植林等）

パリ協定と統合的な目標設定と情報開示の拡充・透明性向上

科学的アプローチ
(SBT等)



石炭火力発電向け融資
残高削減目標 (PF)



▶ 詳細 : P.74

CO₂削減目標
(再エネPF)



▶ 詳細 : P.73

コミュニケーションツール充実
(サステナビリティレポート、
ブックレット等)



▶ <https://www.muftg.jp/csr/report/>

カーボンニュートラル実現を支える体制の強化

役員報酬への
ESG要素反映

取締役会による
基本方針策定

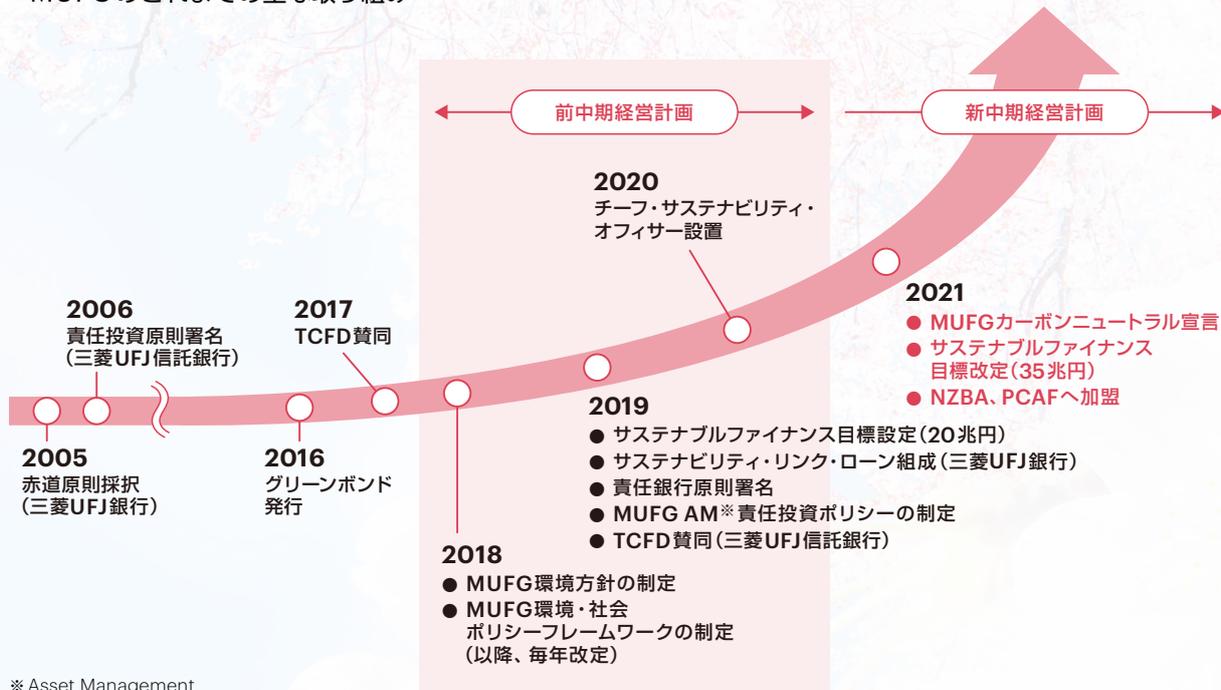
グループ・
グローバルの
プロジェクトチーム

外部リレーションの
強化
外部知見の活用強化

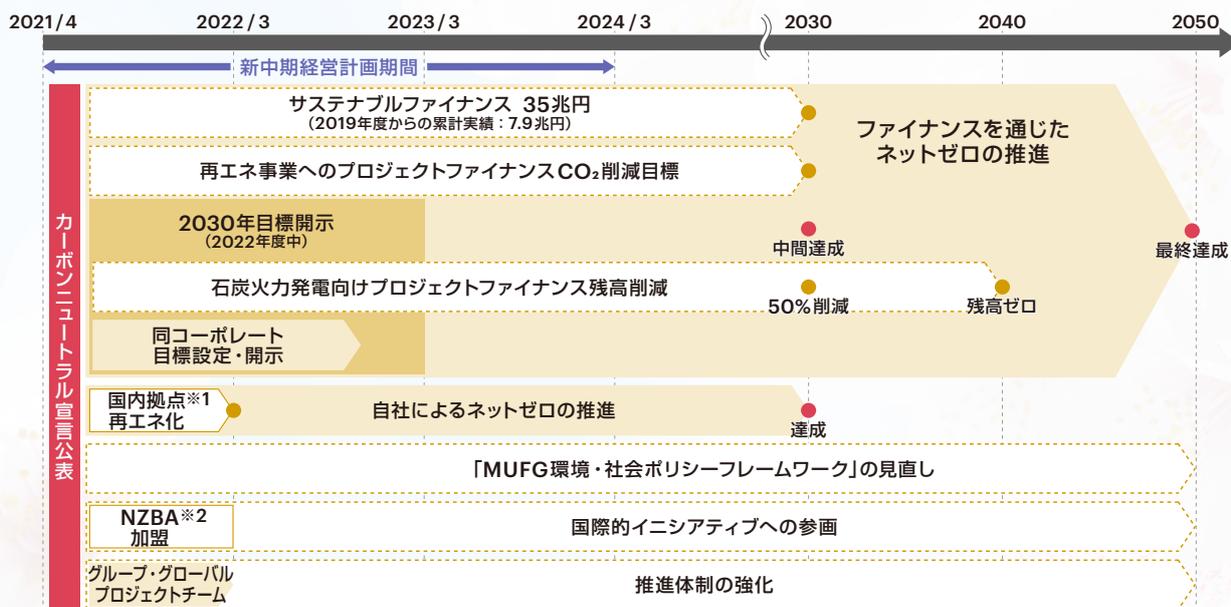
プロ人材の
強化・育成

MUFGは、世界が直面する最も深刻な問題の一つである気候変動への対応に全力で取り組み、「世界が進むチカラになる。」というパーパス(存在意義)に基づいた具体的な行動計画を策定します。パリ協定の合意事項達成のため、事業を通じて脱炭素社会へのスムーズな移行を支援し、環境と経済の好循環による持続可能な社会の実現に積極的に貢献します。

● MUFGのこれまでの主な取り組み



● MUFGカーボンニュートラル宣言実現に向けたロードマップ



※1 銀行、信託、証券の国内拠点
※2 Net-Zero Banking Alliance

サステナビリティの推進

サステナビリティに関する方針

各方針の詳細は (<https://www.mufg.jp/csr/policy/>) をご覧ください。

環境

- MUFG環境方針
- MUFG AM 責任投資ポリシー
- MUFG環境・社会ポリシーフレームワーク

社会

- MUFG人権方針
- MUFG環境・社会
ポリシーフレームワーク
- MUFG AM 責任投資ポリシー
- MUFG人事プリンシプル
- 購買活動に関する考え方
- 英国現代奴隷法への対応
- クラスタ弾への対応
- MUFGグループ個人情報保護方針
- サイバーセキュリティ経営宣言
- インクルージョン&
ダイバーシティの考え方

ガバナンス

- MUFGグループ行動規範
(詳細は<https://www.mufg.jp/profile/governance/ethics/>)
- MUFGグループ情報開示方針
- 利益相反管理方針
- 反社会的勢力に対する基本方針
- 贈収賄防止への取り組み
- MUFGフィデューシャリー・デューティ基本方針
(詳細は<https://www.mufg.jp/profile/governance/fd/>)
- MUFGコーポレートガバナンス方針
(詳細は<https://www.mufg.jp/profile/governance/policy/>)
- リスク管理 基本方針
(詳細は<https://www.mufg.jp/profile/governance/risk/>)
- コンプライアンス 基本方針
(詳細は<https://www.mufg.jp/profile/governance/compliance/>)
- グローバル金融犯罪対策ポリシー

グループ各社の方針

- 三菱UFJ銀行
(詳細は<https://www.bk.mufg.jp/kigyou/policy/>)
- 三菱UFJ信託銀行
(詳細は<https://www.tr.mufg.jp/ir/keiei/>)
- 三菱UFJ証券ホールディングス
(詳細は<https://www.hd.sc.mufg.jp/sustainability/>)

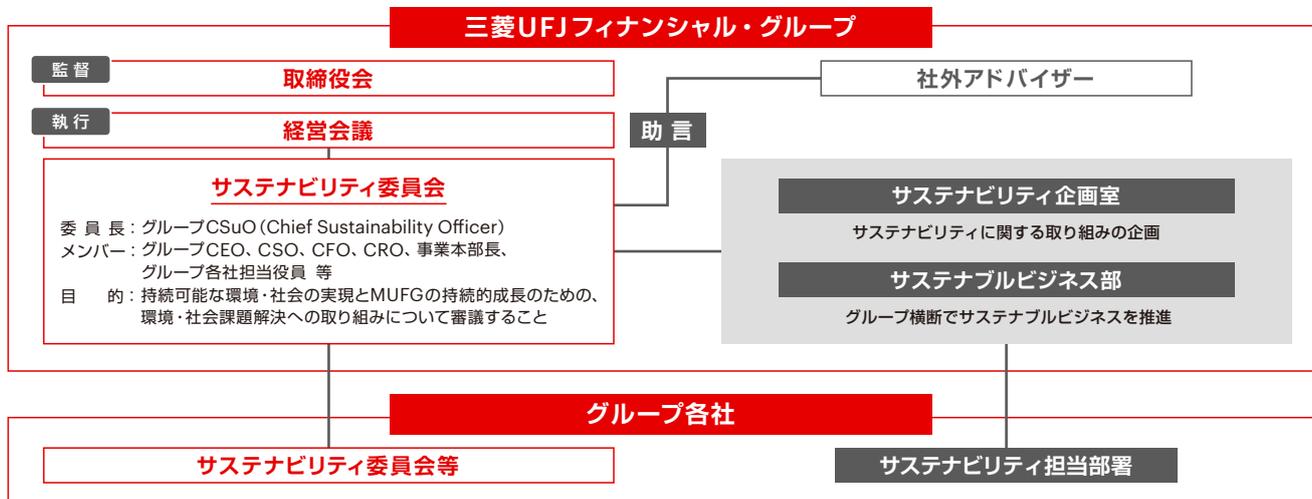
サステナビリティ推進体制

MUFGは、取締役会の監督のもと、「サステナビリティ委員会」を中心としたサステナビリティ推進体制を構築しています。

本委員会は、取締役会のメンバーであり、サステナビリティの取り組み全般について責任を負うグループCSuO(Chief Sustainability Officer)が委員長を務めています。CSuOは、経営企画・戦略担当であるグループCSO(Chief Strategy Officer)を兼務しています。

MUFGは、サステナビリティ委員会を原則年1回以上開催し、サステナビリティへの取り組み状況の確認と審議を行い、その内容を経営会議および取締役会に付議・報告し、取締役会の監督を受けています。また、サステナビリティに関する課題やリスクについて、常時専門意見の聴取を可能にするため、2名の社外アドバイザーを招聘しており、取締役会メンバーと意見交換を行い、専門的立場からの助言・提言をMUFGのサステナビリティへの取り組みに活かしています。

サステナビリティ推進体制



各役職・部署の役割

● グループCSuO (Chief Sustainability Officer)

サステナビリティ実現の推進を行い、その取り組みについて責任を負う。取締役会構成員のグループCSOが務めている。

● 社外アドバイザー

外部知見をサステナビリティ経営に反映するため、マネジメントとの意見交換を定期的を実施する。

● 経営企画部サステナビリティ企画室

サステナビリティ経営の企画立案を担い、サステナビリティ経営を全社的に加速させる。

● サステナブルビジネス部

サステナブルファイナンス推進の専門組織。MUFGのポータル・ハブ組織として、サステナブルビジネスに関する情報をグローバルに集約化し、各種情報やソリューション提供を通じて、お客さまの持続的成長を支援する。

ステークホルダーエンゲージメント

—全てのステークホルダーが次へ、前へ進むためのチカラに—

変化の速い時代、多くのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。これが未来に向けて変わらないMUFGの存在意義です。

MUFGは、新たな気づきを得るとともに、相互理解

を深めるため、ステークホルダーの皆さまとの建設的な対話を積極的に進めていきます。ステークホルダーの皆さまの関心事項や抱えている課題等を踏まえた、適切な対応を行うことで信頼関係・協働関係を築き、MUFGの持続的成長と中長期的な企業価値の向上に繋げていくように努めます。

デジタルを活用した新しいサービスなどを通じて、誰もが自分らしい豊かな生活を実現するためのチカラになります。

【2020年度の主な取り組み】

- お客さまから寄せられたご意見 約18万件*、うちサービス改善事例 249件

* 銀行、信託、証券、ニコス、アコム

未来を生きる世代のために、人と地球が調和し共生する世界をめざします。積極的なアクションを起こし、未来の世代のチカラになります。

【2020年度の主な取り組み】

- サステナブルファイナンスの推進
- 気候変動への対応
- 寄付による次世代支援
- 各種イニシアティブへの参画

地域コミュニティへ積極的に関わり、繋がりを強化することで、多種多様な社会課題を解決するチカラになります。

【2020年度の主な取り組み】

- NPO/NGOと定期的な対話を実施 23件
- 社会貢献活動

未来の世代
環境
若年層

お客さま・パートナー



個人 約3,400万人
法人 約120万社

地域・社会



地域コミュニティ
地方公共団体
NGO/NPO

MUFG

MUFGの仲間



社員 約17万人
(国内48%、海外 52%)

株主



単元株主 約84万人
(国内金融機関 約34%
海外 約30%、個人 約18%)

株主構成は自己株式を除く)

社員一人ひとりの個性を尊重しながら、多様な人材が力を発揮し成長できる職場づくりを通じて、MUFGの仲間のチカラになります。

【2020年度の主な取り組み】

- 経営陣によるタウンホールミーティング開催 約100回、国内外 約6万人が参加
- サテライトオフィス 33拠点に拡大
- 本部在宅勤務比率 55% (2021年3月)

透明性の高い開示と建設的な対話、そこで得たご意見の経営への還元と、経営戦略への反映を通じて、期待に応えます。

【2020年度の主な取り組み】

- 株主総会 来場者 269人、視聴者 1,014人
- 機関投資家・アナリスト向け説明会 8回
- 機関投資家との個別面談 245件(海外投資家 117件)
- 個人投資家向けセミナー 3回、視聴者約 1,700人

ステークホルダーへの情報発信と対話

事業戦略セミナー「MUFGのサステナビリティ経営 –気候変動への取り組み–」開催！

2021年6月3日に投資家向け気候変動セミナーをオンラインで開催しました。

セミナーでは、宮下CSuOから「MUFGのサステナビリティ経営」「MUFGカーボンニュートラル宣言」について、サステナブルビジネス部の加藤部長から「サステナブルビジネス」についてプレゼンテーションを行った後、質疑応答を行いました。

質疑応答では、MUFG環境・社会ポリシーフレームワーク、温室効果ガス排出量ネットゼロに向けた目標設定、サステナブルビジネスの収益性などのテーマについて活発な議論が行われました。

- ▶ 当日のプレゼンテーション資料および主なQ&Aはこちらをご覧ください。
(<https://www.mufg.jp/ir/presentation/2021/>)

参加者からは、「丁寧かつ、真摯にご回答いただき満足度の高いセミナーだった」「気候変動に対する取り組みについてよく理解ができた」「カーボンニュートラル実現に向けた強いコミットメントを感じた」といった好意的な感想が寄せられました。



サステナブルビジネスデイを開催！

2021年2月12日にお客さま向けイベント「サステナブルビジネスデイ」*をオンラインで開催しました。

ESGファイナンスやトランジションをキーワードにグローバルな潮流や先進的な取り組み事例を紹介するため、事業法人・投資家・地方自治体・金融機関を中心に、600人超のお客さまにご参加いただき、非常に盛況なイベントとなりました。

本イベントを通じて、お客さまの脱炭素化に向けた

*本イベントは、東京都が開催する持続可能な都市づくりに貢献する金融サービスの普及促進への寄与、および、サステナブルファイナンス分野における東京都のプレゼンス向上をめざしたイベント「東京・サステナブル・ファイナンス・ウィーク」との連携イベントでした。

取り組みを支えていくことの重要性を再認識しました。

MUFGは、お客さまとの対話を通じたトランジションやイノベーションの支援を推進していきます。



ESGセミナーを開催@シンガポール

「投資家・企業のESG動向 –持続可能な社会を金融で支える–」をテーマに、シンガポール法人営業部の130人超のお客さまにご参加いただきました。

ESG経営、サステナブルファイナンスの最新動向およびMUFGのサポート体制や、アジア・オセアニアにおけるESGの潮流とMUFGの取り組みについて紹介し、「金融機関・投資家がESG経営をどう捉えているかを理解できた」「サステナブルファイナンスの具体的な枠組みを聞いて参考になった」というお声をいただきました。

国家としても「グリーンファイナンスのハブ」をめざしているシンガポールにおいて、今後もお客さまのESG経営に金融機関として貢献していきます。



MUFGの仲間との対話

MUFGは、社員一人ひとりが自立的・自発的に考え、チームの役割を自分事化して行動・挑戦する組織をめざしています。

そのために、自由闊達でスピード感溢れるカルチャーを醸成します。社員が日々の業務の中で、自らの仕事に誇りを持ち、幸せを感じながら将来に夢を持てる経営の実践が必要です。

そういった経営を実現するために、グループ各社の経営陣と社員のタウンホールミーティングや、社員も参加する外部有識者と社長との座談会、社員一人ひとり

が企画・実行する社会貢献活動等、各種のエンゲージメント向上施策を推進しています。今回新たに制定したMUFG Wayや、行動規範の自分事化を図るため、職場でのコミュニケーションを活発化する施策や研修などを実施しています。

こうした施策の効果は、年次で実施している「グループ意識調査」等を通じて確認され、取締役会に報告されています。2020年度は約10.3万人の社員を対象とし、93%から回答を得ました。課題として認識された項目については、改善措置を講じています。

経営陣によるタウンホールミーティング

社員のエンゲージメントを高めるためには、経営に対する共感が必要です。社員に経営のめざす姿を直接伝えるとともに、経営陣が社員の考えに直接接触して気づきを得る場として、タウンホールミーティングを積極的に開催しています。

2020年度は、国内外で延べ約6万人の社員に対して、タウンホールミーティングを実施しました。女性社員向けに仕事・キャリアと家庭の両立などにテーマを特定した会も開催しています。

▶ 詳細:「女性社員向けタウンホールミーティング」はインクルージョン&ダイバーシティ(P.88)をご覧ください。

参加者	累計 60,000人
国内社員	累計 50,000人
マネジメント層向け	1,700人
女性社員向け	500人
海外社員	累計 9,200人

30,000人超！ 全従業員×全役員タウンホールミーティング

2021年1月から2月にかけて、銀行の国内従業員約30,000人を対象に、オンラインタウンホールミーティングを開催しました。

国内の全役員76人が、「今、経営が考えていること」を直接伝えるとともに、従業員の抱える日々の課題認識や考えを共有しました。リアルタイム・アンケートを活用することで、参加者がその場で質問や意見を投げかけたり、役員が自身の回答に対する参加者の反応を確認できたりと、活発な双方向コミュニケーションが行われました。参加者からは、「役員が今考えていることを知ること距離が縮まった」「オンラインならではの参加しやすい取り組みで、他の従業員の質問や意見が刺激になった」という声が寄せられました。



外部有識者と社長との座談会

社員が他社の経営理念や課題認識、取り組みを知り、MUFGの可能性について新たな視点を得ることを目的に、外部有識者と社長との座談会を開催しました。

毎回約500人の社員もオンラインで参加し、外部有識者との質疑応答に参加しました。



Grab社/
Anthony Tan社長との対話



KDDI株式会社/
高橋社長との対話



株式会社丸井グループ/
青井社長との対話

あしたの金融プロジェクト

コロナ禍において働き方、暮らし方、教育など社会の変化が加速するなか、各種給付金・支援金の支給、中小企業・フリーランスへの貸付など、金融サービスのあり方が問われています。「あしたの金融プロジェクト」は、社長と若手社員が、さまざまな分野で活躍する方を訪ね、対話を通じて社員一人ひとりが、「金融は誰のものなのか」「MUFGは今何を求められているのか」「私たちに何ができるのか」を考えるきっかけを生み出しています。

対話の様子は各1時間の動画にして社員向けポータルサイトで視聴できるほか、各15分にまとめたダイジェスト版をYouTubeにも公開しています。

▶ダイジェスト版はYouTubeでご視聴いただけます!
(<https://youtube.com/playlist?list=PLIP9DsBjl-gps8RcKZxbelAv77n3xzQgs>)

社長と本気で語る会

「社長と本気で語る会」は、社員が社長と継続的に議論する会です。新しいビジネスモデルや金融業の付加価値などをテーマにした提言書によって選抜された10人が、MUFGの未来について4ヵ月にわたって社長と議論しました。MUFGは「どう変わるべきなのか」「どのようにしたら変わるのか」を深く掘り下げました。

所属会社、従事する業務、年齢が異なる社員からさまざまな問題意識が出され、参加者は多くの気づきを得

▶ **その他関連ページ**：
・人材戦略 (P.81)
・インクルージョン&ダイバーシティ (P.86)
・社会貢献活動 (P.105)

これまでの開催テーマ

- 第1回 アフリカで見つけた新しい金融のかたち
- 第2回 金融が何者かは、きっと音楽が知っている
- 第3回 畑で芽吹く、エシカルな金融像
- 第4回 「借りにくい人」に、「自由」を
- 第5回 社会を「聴く」組織、女性が輝く企業
- 第6回 口座がつかれないホームレスの人の、路上脱出のために
- 第7回 何のためのDXか、その答えは現場にある

るとともに、会社を変えるためには社員自らが自律的・自発的に行動する必要があるとの認識を新たにしました。

最終回ではチームとして社長宛に提言を実施しました。今後は、参加した社員自らが考え提案したプロジェクトを推進し、魅力的な会社の実現に向けて取り組んでいきます。